

※ 川岸工業 ※

約3週間の新入社員研修を実施

社会人としての基礎知識習得と主体性を促す

業界にとつて若手人材の育成は重要なテーマだ。自社の業務や業態、各社の特徴に合わせて経営者からの直接指導や技術講習、外部講師を招いたセミナーなど、各社がさまざまなかたちで取り組んでいる。

大手Sグレードファブの川岸工業(本社・東京、清時康夫社長)は、今年も全



製造部第一課実習でのけがき体験



安全衛生研修でのフルハーネス講習

新入社員17人を対象に、4月1日の入社式から17日まで、集合研修を実施した。研修の狙いは①学生から社会人となる節目における意識や行動の変革、自覚や責任の醸成②ビジネスマナーを身に付け実践する③実務に円滑に対応するための基礎力を習得④理念を自分ごと化し、今後の行動と成長イメージを抱く――などだ。

研修は、同社の歴史や理念、各部署の業務、安全衛生、品質管理、現場見学、コンプライアンス、金融リテラシー、情報セキュリティ、社会保険制度、ビジネスマナーなど、多岐にわたるプログラムで行われた。

今年、同社が建設に参画したTOD A BUILDING



千葉第一工場の見学



役員と参加者への各グループ発表

ながら、料理を堪能した。また、研修最後の2日間、新入社員に加え、入社2、6年目の若手社員との合同研修を行った。藤井由香里氏を講師に招き、グループワークを中心に「先読み力」「段取り力」「巻き込み力」などを学んだ。最終日の17日は、総勢45人が9グループに分かれて「会社の未来像」や「若手の取り組み宣言」をテーマに役員に向けて発表。内容は、安全衛生、相互コミュニケーション、残業時間、離職率、DX化、人材育成制度、業績アップなど多岐にわたった。

発表後の講評では、石松克也常勤監査役が「第二次中期経営計画のヒントになる内容が多くあり、大変勉強になった。この機会

で自分以外の意見や視点に触れる環境の大切さを知ったと思う。それがチームの力になる。チームの質が高まれば仕事の質も上がる」と述べた。次に、取締役・竹永光貴東京支店長が「今日ここで経験して覚えたことを社内で広め、チーム力を高めたい」と述べた。最後に、取締役・藪田浩志経営企画室長兼事務統括部長が「今日のテーマは『将来を見据えて今何をするのか』『今認識していること将来に向けてどう解決していくのか』だが、この二つは、今後仕事をするとき必ず役立つ。10年後、10

0年後にありたい姿を実現できるよう、今日学んだことを是非各職場に持ち帰って実践してほしい」と述べた。

研修は、基礎知識の習得のみならず、さまざまな立場の者の相互理解を深める一助になっており、業務の円滑化や社内の良い雰囲気作りに繋がる。また、新たな気付きが慣習を打破し、新たな文化として次世代に受け継ぐ原動力にもなる。自分の立場で何ができるのかを明確化し、若手人材が主体的に企業を活性化することを期待したい。



TODA CREATIVE LAB "TODAtte?" 見学